

# 令和4年度ゼミナール活動報告

## 大西ゼミ

### ◆本ゼミについて

本ゼミは、2年生15人、3年生15人、4年生4人が在籍しています。研究テーマでは、労働を取り扱っており、社会的に不利な立場の人達の視点から捉え、議論を行っています。

### ◆活動内容

#### ◇ゼミ成果発表会：2年後期

4～6人のグループに分かれ、「障害者雇用の現状と課題」「女性の雇用形態別の課題とその考察」「様々な支援策」というテーマで、ゼミ成果発表会に参加しました。本番前に、先生と3・4年生の前で発表し、フィードバックをいただき、本番に活かしました。

#### ◇先行研究の分析

先行研究の分析については、まず、それぞれの研究テーマに基づき、それに関連する論文を調べました。次に、調べた論文に関して、全体に報告し、先生からフィードバックをいただきました。最後に、3～4人のグループに分かれ、討論を行いました。

#### ◇新聞記事についての討論

先生が用意された新聞記事に関して、3～4人のグループに分かれ、討論を行いました。

#### ◇ゲストスピーカー：2・3年合同／4年生

ゲスト講師の方に来ていただき、自身の仕事経験について、お話をうかがいました。そして、2・3年生では、4～5人に分かれ、グループワークを行いました。4年生は座談会を開催しました。

#### ◇4年生からの就職活動・卒業論文に関するお話：全学年合同

4年生に来ていただき、自身の就職活動と卒業論文に関して、お話をうかがいました。そして、質問をさせていただきました。

#### ◇卒業論文の執筆／ゼミ生の研究テーマ

先行研究の分析を踏まえ、卒業論文を執筆しました。ゼミ生の研究テーマは「障害者の働きや

すい環境作り」「アニメーション産業における労働問題と課題」「アイヌの人々の就労について」「日本の正規雇用労働者における長時間労働の問題」「発達障害者と労働市場」「ホームレス問題」等に焦点を当てたものとなっております。

◆その他

フィールドワークや春合宿を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、行うことができませんでした。今後、情勢を踏まえ、行う予定です。

## 尾近ゼミ

### 【研究テーマ】

社会分析の手法としてのマルチエージェント・シミュレーション入門とマイクロ経済学の学習

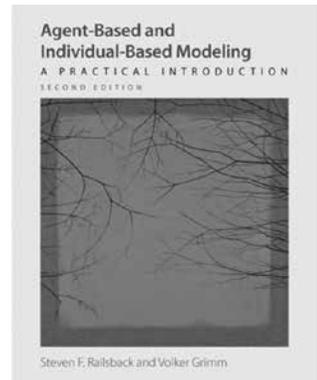
### ●ゼミの各学年の学習内容

いくつもの要素や複数の主体が相互作用し絡み合う複雑な事象（複雑系の現象）として理解できる社会問題・経済問題を分析するためのマルチエージェント・シミュレーションの技法を学習しました。

具体的には、マルチエージェント・シミュレーターのNetLogoの使い方を、英文テキスト Agent-Based and Individual-Based Modeling: A Practical Introduction を用いて学習し、複雑系という視点からの社会問題や経済問題を分析する 科学的発想と問題の定式化方法、モデル作成方法、そしてシミュレーションによって生成されるデータの統計分析手法について理解を深めました。

演習Ⅰおよび演Ⅱでは、上記英文テキストを読み、マルチエージェント・シミュレーション技法を学習しました。また各自でマイクロ経済学の教科書を読み込み、経済分析の方法に関する理解を深めました。

演習Ⅲでは、各自の研究課題に沿った研究を進め、2年半の学習成果として以下のタイトルの研究論文を作成しました。



- アリ モデルを使用したエラー戦略の妥当性の検証
- 異文化学習の分居緩和効果に関するシミュレーション分析 ～多様性を尊重する、よりよい社会に向けて～
- 利他的エージェントが支配的となる環境条件の定量分析
- N人版繰り返し囚人のジレンマゲームにおける：個人の非合理性と社会的効率性の関係
- ホテリング原理の頑健性分析～拡張ホテリングモデルにおけるキャパシティが立地に与える影響の検討～

また全学年共通で Python を学習。AtCoder主催のプログラミングコンテストに定期的に参加し、プログラミング能力を向上させました。さらに、オンライン学習動画サービスの gacco で、データサイエンスや統計学の学習を各自で進めました。

## 尾崎ゼミ

### 2年生（後期のみ）

- 自己紹介、テーマ決め
  - テーマが近い人同士で4つのグループに分けてグループワークののちグループ発表
  - 先行研究の収集と読み込み
  - 集めた先行研究の紹介と今後の計画に関する個人発表
- 活発なグループワークができた

### 3年生（通年）

- 先行研究のまとめ
- 卒業論文の序文の下書きの決定
- それぞれのテーマについての話し合い
- 個人面談
- 卒業論文を書き始める
- 就職活動、4年の活動についての話し合い

### 4年生（後期のみ）

- 就職活動の報告
- (旧カリキュラムではゼミ論文を3年次に提出したため) 新たな卒業レポート (5000字~6000字程度) のテーマ決め (3年次に提出した論文の課題の継続も可)
- 途中経過報告
- 卒業レポートの提出と口頭発表

## 尾田ゼミ

### 2年ゼミ（4期生）

4期生は9名でのスタートとなりました。3年次から編入生2名が加わる予定です。

ユニクロを事例として、基本的な企業情報・業界情報の分析のやり方を学習し、後半では自分たちでテーマや問いを設定し、レポートを書いてみるという作業を行っています。

要約や分析を通じて、PowerPoint、Excel、Wordの使い方の復習や抜け落ちの確認を行いました。

後半の調査テーマは下記の通りです。

- ・ECサイトをブランド別に自社展開するのはどのような効果があるのか（ECモール等との比較）
- ・店舗の大型化はどのような意図があるのか、どのような効果をもたらすのか
- ・様々な他ブランドとのコラボレーションにはどのようなネライがあるのか

昨年度の『一勝九敗』や一昨年度のサイゼリヤに比べると、大分読みやすい本で、整理された本がどう整理されているかを追えば良いだけなので、PowerPointでのまとめ方に集中できたようです。この後、3年前期は本読み、3年後期はグループプロジェクトという予定でしたが、3年前期にグループプロジェクト、3年後期に本読みしながら卒論のテーマ探しをする予定です。

### 3年ゼミ（3期生）

前期は江崎貴裕（2020）『分析者のためのデータ解釈学入門』ソシムを読みながらデータ分析の発想や考え方について学びました。また、並行してスライド4枚以内のショートプレゼンを実施し、個々の関心をもった現象やテーマについての発表を行いました。

後期は、2グループにわかれてNetflixを対象としたグループワークを行い、同社のビジネスのリスクがどのような点にあるのかを分析しました。

- ・Aチーム「多角化企業と専門企業の競争：動画配信サービスを事例として」
- ・Bチーム「NetflixとSpotifyの比較：業界構造の差による影響」

### 4年ゼミ（2期生）

卒業研究を行いました。この学年はちゃんとした卒論を課していない代なのですが、自分でテーマを探すということの難しさを実感したようです。テーマは下記の通りでした。

- ・都市間の創業率や生産性の違いをもたらす要因について
- ・時間価値の概念整理：運送サービスの提供する価値の類型化
- ・箱根駅伝はなぜ人気なのか：順位の逆転に着目して
- ・日本と諸外国におけるメタバースや拡張現実（AR）の焦点の違い

## 小野ゼミ

### ■テーマ：『企業研究』

大企業、中小企業、ベンチャービジネス、外国企業、非営利組織の企業体を対象に、ケーススタディの手法を用いて研究を行っています。主な活動：①会社が公開する諸資料の収集方法、分析方法の学習、②発表・プレゼンテーションのトレーニング、③グループワーク（ゼミ生同士の共同作業）、④実社会に向けた学習活動（輪読と討議）、⑤外部講師を招聘した企業研究。

### ■演習Ⅰ（2年生）

後期：後期授業『経営分析』をもとにした反転授業を実施した。2名1組になって各回の講義内容と課題演習についてプレゼンテーションを行った。

### ■演習Ⅱ（3年生）

前期：6チームに分かれて共同で企業研究活動と発表を行った。

研究企業：博報堂、資生堂、サイバーエージェント、エイチ・アイ・エス、Food & Life Companies、Tesla, Inc.

後期：大津広一『経営指標大全』の輪読。1チーム3名が各章を調べ重要なポイントの解説と所感を発表するスタイルで行った。大学院・専門家向けの書籍のため読解に苦しんだ人も多かった。前期に引き続き6チームで定性分析を中心に共同研究活動と発表を行った。そのうち1チームがゼミ成果発表会で「社会性の観点からみたエイチ・アイ・エス」をテーマに発表を行った。

### ■演習Ⅲ（4年生）

前期：前期は伊藤邦雄『新・企業価値評価』の輪読。1チーム2名が各章を調べ重要なポイントの解説と所感を発表するスタイルで行った。

後期：各人がゼミ論作成に向けた企業研究に従事し、中間発表・最終発表を行った。1月にゼミ論の最終原稿を提出し、2-3月にゼミ論集を編集・印刷する予定。

研究企業：日本テレビHD、近鉄エクスプレス、大和ハウス工業、東急不動産、湖池屋、ロック・フィールドほか

### ■外部講演

10月4日講演会「アパレル業界経営者の仕事」（LECTEURパートナー 金子大介氏）  
ゼミ3年生が講演者選定から講演会運営まですべて担当。20代でアパレル業界のコンサルタントとして独立した金子氏を招き、独立に必要な資質能力考え等についてうかがった。

## 木村ゼミ

### <通常のゼミ活動>

毎週火曜の5・6限を使い3年生6名でゼミを行っております。基本的に3人2チームで授業を進めていきます。

ゼミの進め方としてはまずゼミ生全員が1週間の中で気になった日経新聞の記事を1つ共有し、全体に報告します。報告記事の内容は不問ですが、主に金融経済、マーケット記事をメインに討論しております。

メインの活動は、1人1人に割り振られた教科書の内容を週ごとにレジュメを作って発表します。その週のレジュメ担当者以外のメンバーたちは事前に予習をして教科書の理解できてない部分を質問します。その後、チームに分かれて討論し、またその結果を共有するような流れになります。検討後はグループワークで検討した内容を共有し、適宜木村先生のフィードバックを受けてゼミが進んでいきます。

### <明治大学との合同ゼミ> 12月18日(日曜日)

昨年はZOOMで開催でしたが、今年は明治大学、駿河台キャンパスにて対面形式で行いました。ゼミ生全員が一心になって協力しながら、最終のディスカッション報告に向けて最後まで検討し、成果を出しました。明治大学の方々とのディスカッションにより新たな視点から考えることができ、とても良い機会になりました。

今年のテーマは、木村ゼミが「人民元の国際化VSドル体制の継続」で、明治大学の高濱ゼミが「日本の輸出企業の契約通貨選択行動と東アジア地域における基軸通貨交代の可能性」でした。各大学1チームで、ディスカッションを行いました。

両大学は事前に発表資料を共有したので、当日の質疑応答の議論が活発になり、とても良い展開でした。相手チームの発表内容を聞き、更に広い視点を考えることができとても有意義なイベントでした。

## 紺野ゼミ

### 【研究テーマなど】

紺野ゼミナールは、「コーポレートファイナンス（企業財務）」をテーマにゼミナールを運営している。4年生（4期生）12名、3年生（5期生）20名、2年生（6期生）20名のメンバーで構成されている。

### 【活動内容】

コーポレートファイナンスの理論面を学んだ上で、具体的な企業の財務的な活動について調査・分析を行っている。さらに、テキストクリティークや統計数値の活用方法について学んでいる。各学年の主な活動内容は下記の通りである。

2年生は、コーポレートファイナンス関連のテキストの輪読を行い、事例を通して企業と家計のファイナンスを基礎から学んだ。また、横浜国立大学の経営学部のゼミナールと合同ゼミナール開催し、財務データを用いてコロナ前後の企業業績の変化について同業種の2社比較を行った。

3年生は、前期はテキストの輪読と、個人単位でレポートの執筆を行った。後期は、横浜国立大学の経営学部のゼミナールと合同ゼミナール開催し、企業の資金調達、投資政策、配当政策の状況などについて調査分析を行った。

4年生は、「企業の活動とお金に関する諸問題」について多角的な分析を行い、個人単位で企業財務に関する卒論を執筆した。研究テーマは「M&A」「タックス・マネジメント」「中小企業金融」や特定の業界分析（IT、アパレル、教育、コンビニ）など多岐にわたっている。

課外活動として、2・3・4年合同ゼミを実施した。上級生から就職活動への取り組み方等、大学生活全般に関するアドバイスを頂いた。

### 【総括】

1年間のゼミナール活動を通じて、多角的な視点から分析や考察を行い、相手に伝える力を身につけることができた。特に、レポート発表では、ゼミ加入前と比べて、扱うテーマの設定や用いているデータ等の面で工夫がなされており、成長が見られた。今後も引き続き、ファイナンスの理論と実務の双方から知見を高め、適切にアウトプットする力を身につけていきたい。

## 櫻井ゼミ

主なゼミ活動は以下の通りです。

### 演習Ⅰ（2年生）

#### （1）文献の輪読

以下の文献の内容報告を分担して行い、グループワーク形式での意見交換を行うことを通して、著者の主張の意義や限界を協力してまとめた。

藻谷浩介・NHK広島取材班『里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く』角川新書、  
2013年

#### （2）地方財政分析

それぞれのゼミ生が、自分にとって身近な市区町村の財政の現状と課題をまとめた。

### 演習ⅡA・ⅡB（3年生）

#### （1）高大連携授業

國學院高校の生徒を対象に、2年次のゼミ活動の紹介を行った。

#### （2）グループ論文（4点）の執筆

#### （3）学習成果の発表：

以下の学外の学術大会や大学合同発表会においてグループ論文の発表を行った。

- ・第62回インナー大会（主催：日本学生経済ゼミナール関東部会、オンライン実施）
- ・大学合同発表会（青山学院大学・香川大学・立命館大学の社会保障論や財政学を専攻するゼミとの合同実施、於：青山学院大学）。

#### （4）就職活動に向けた共同学習

- ・エントリーシート作成と意見交換
- ・模擬面接

### 演習Ⅲ・Ⅳ（4年生）

#### （1）卒業論文（17点）の執筆

#### （2）学習成果の発表

以下の大学合同発表会において卒業論文の発表を行った。

- ・大学合同発表会（青山学院大学・香川大学・立命館大学の社会保障論や財政学を専攻するゼミとの合同実施、於：青山学院大学）。

## 田原ゼミ

### 【田原ゼミと全体の活動】

私たち田原ゼミは、人口減少社会における社会保障やまちづくりについて学んでいます。

普段のゼミ活動は3学年合同で授業を行っており、主に4年生は卒論の報告、2・3年生は教科書報告や、卒論制作に向けた文献報告を行っています。

また学内の活動に加えて、学外での活動も積極的に行っています。今年度は地域連携活動として渋谷川遊歩道沿いでの「さくらホッとこたつ」にて地域の方々と交流を深め、「渋谷川巡検」では渋谷再開発や渋谷川の変遷を実際に確認しました。夏期合宿では千葉県佐原に赴き、実際に官民連携事業により建設された橘ふれあい公園にて、実際に事業を担当した企業の方から官民連携事業の概要をお伺いしたことで理解を深めました。

### 【活動内容】

#### 〈2年生〉

##### ・「教科書報告」

『地域創生と未来志向型官民連携』（2020）を用いて、「PFI導入によりどのような変化がもたらされたのか」「PPP/PFIの事例・評価」「今後の官民連携の方向性」を各々の言葉でまとめ、PPP/PFIへの理解を深めた。

使用した教科書：日本政策投資銀行ほか編著『地域創生と未来志向型官民連携』2020年、ダイヤモンド社

#### 〈3年生〉

##### ・「渋谷川巡検」

2年生に対しフィールドワークを用いて渋谷川の現在と過去の移り変わりを紹介し、渋谷のまちづくりについて学習を行った。

##### ・「卒論に向けた文献報告」

それぞれが研究するテーマの選定を行い、選定したテーマについて関連する論文や新聞記事を用いてさらに理解を深めた。

#### 〈4年生〉

##### ・「卒業論文執筆」

社会保障や地域活性化といったテーマだけでなく、各々の関心があるテーマについて資料を収集し分析を行った。

今年は「社会の変化とジャニーズの変遷」「日本におけるキャンプの普及と発展～キャンプに関わるビジネスに注目して～」「東京都足立区における空き家問題の現状と改善策の提言」等の論文が作成された。

## 辻ゼミ

今年度から開講された辻ゼミでは、学生の主体的な学習コミュニティの形成を目指して個人研究発表のほか、文献・論文発表に意欲的に取り組んだ。

### 【研究テーマ】

人的資源開発、組織開発

### 【授業内容】

#### ■ 2年生ゼミ（1期生、男子8名、女子7名、計15名）

今期は①課題図書、②論文分析、③個人発表の3つの取り組みを軸に活動を行った。

①課題図書では、『非認知能力：概念・測定と教育の可能性』（小塩真司ら、2021. 北大路書房）を読み、個人ごとに担当する章を決めて発表を行った。発表ではそれぞれがプレゼンテーション資料を作成するのに加え、担当章の内容に関連するグループワークを考案し、ワークショップ形式で解説することで、内容の理解を深めた。

②論文分析では、「論文を分析することで今後自分が身に着けていくべき知識やスキルを具体的にイメージできるようにして、これからの自身の研究プロセスの道筋を描けるようになること」を目的として取り組んだ。指定された論文をチームで分析し、構造、構成、論文を書くために必要な情報、知識、スキルは何かを読解し発表を行った。ここでもグループごとに各自でプレゼンテーション資料を作成したのに加え、ディスカッションを行い、積極的な意見交換をすることで理解促進に努めた。

③個人発表では、ゼミの最終成果物である卒業論文に向け、個人が研究に関することで関心があることをまとめて発表を行った。ここでは上記2つの取り組みとは異なり、発表資料をワードで作成することで、しっかりと文書をまとめる力を養うことにも繋がった。

ゼミの授業は対面で行い、ゼミ生が「日直」として毎回交代で授業進行を担当し、ファシリテー



ションを行った。授業内ではグループワークや、ディスカッションを行う機会が多く設けられ、毎回の授業でほぼ全員が発言を行った。ゼミ全体で学びに真剣な雰囲気がつくられており、今後も主体的な学習コミュニティとして維持・向上させていきたい。

また、授業での活動以外にも、株式会社POLAとの産学連携プロジェクトやゼミ成果

発表会での研究成果発表、SNSアカウントを運用し、ゼミ活動の積極的な発信など、それぞれ生徒が主体となり意欲的に活動に取り組んだ。(執筆担当：野田大夢)

■ 3年生ゼミ（0期生、男子3名、女子0名、計3名）

3年生の編入生で構成されたゼミでは、卒業論文に向けて個人研究の発表と議論を繰り返した。ゼミで課されている卒業論文の土台となる「ミニ卒論」を1万字程度執筆し、全員が最終回で提出した。

## 手塚ゼミ

本ゼミは本年度より開講し、2年生は金曜6限、3年生は金曜5限に実施した。

### ●活動内容

#### ○2年生（2期生、男子7名、女子9名、計16名）

主に網倉久永/新宅純二郎氏の著書『経営戦略入門』（日本経済新聞出版）の輪読を行い、各回ペアでチームを組み発表していく形で授業が進んだ。大まかな内容は経営戦略の基礎概念と競争戦略についてであった。

本の内容を発表し終わると、班内で発表者が考えた論点について話し合い、その後まとめの講義を聞くという流れであった。本に書かれたフレームワークをひとつひとつ丁寧に学ぶだけでなく、時に別途配布された事例プリントをもとに企業を分析し4人ずつの班で企業分析から戦略の考案までを行い、他チームへの発表を行った。

取り上げた事例はミツカンとカーブスであり、企業の現状分析を行ってから輪読本で学習した分析を順序に沿って落とし込み、内部環境や外部環境から各企業の分析を行った。

#### ○3年生（1期生、男子7名、女子1名、計8名）

前期は、網倉・新宅（2011）の「経営戦略入門」の輪読と、株式会社カーブスホールディングスについて輪読で培った知識を駆使し、現状分析と新規事業の提案を実施した。輪読では、4グループ2名ずつに分かれて、その中の1グループが1週間で1章分の要約と論点作成をし、授業で発表した。「カーブス」の分析・提案では2グループに分かれ、それぞれで現状分析と新規提案をパワーポイントにまとめて授業時に発表し合った。

後期は、株式会社銀座ルノアールと大戸屋ホールディングスの環境分析と新規事業提案を2チームに分かれて実施した後、同じチームのまま武蔵大学ビジネスプランコンテストに参加した。株式会社銀座ルノアールと大戸屋ホールディングスでは、企業の日線から外部環境分析や内部環境分析、顧客ニーズ分析によって現状や課題を把握し、ビジネスモデルキャンバスを用いて課題を解決する新規事業提案をした。武蔵大学ビジネスプランコンテストでは、自分達で新しい事業を考え、その経営戦略を今まで培った知識を応用し、1から作成した。

## 中田ゼミ

中田ゼミは、前期2学年合同、後期3年合同でゼミを行っています。2022年度の各学年の活動実績は以下のとおりです。

### (1) 演習Ⅰ（2年生・後期）

- ◆「ちばぎん・はまぎん学生ビジコン2022」への参加
- ◆企業分析
- ◆金子ゼミとの合同ゼミ（内容：企業分析の発表）
- ◆根岸ゼミ・宮下ゼミとの合同ゼミ（内容：ちばぎん・はまぎんビジコンの発表）
- ◆教科書発表：①「世界一楽しい決算書の読み方」（大手町のランダムウォーカー著、KADOKAWA 出版）、②『この1冊ですべてわかる 経営戦略の基本』（日本総合研究所 経営戦略研究会者、日本実業出版社）
- 外部コンテストの参加や、他ゼミとの合同プレゼンなど、良い経験を積むことができました。
- 教科書を読み込み、発表を行うことで既知の知識の復習と、今後のゼミ活動における知識を得ることができました。

### (2) 演習ⅡA・ⅡB（3年生）

- ◆教科書発表：「すらすら図解 新・IFRSのしくみ」（あずさ監査法人IFRSアドバイザー室編、中央経済社）
- ◆企業価値評価
- ◆「神奈川産業チャレンジプログラム」への参加
- ◆4大学インターゼミへの参加（高崎経済大学、明治学院大学、武蔵大学）
- ◆ゼミ成果発表会への参加
- ◆『の～びのび経済』グループ論文の執筆
- 国際会計（IFRS）のテキストを輪読し、IFRSの基礎知識を習得しました。
- 残余利益モデルを用いた企業価値評価のやり方を学び、企業分析を行いました。
- 産学チャレンジプログラムでは5チームで参加し、そのうち2チームが優秀賞を受賞することができました。
- インターゼミ、ゼミ成果発表会では企業価値評価を含んだ企業分析の発表を行いました。また、その内容を『の～びのび経済』のグループ論文を執筆しました。

### (3) 演習Ⅲ・Ⅳ (4年生)

#### ◆卒業論文執筆

- 前期は就職活動を行いながら、テーマの選定をし、卒業論文の執筆を行い、適宜ゼミ内で報告しました。最終的には、4年生全員が卒論を書き上げることができました。

### (4) ゼミ合宿 (2021年度स्पセ、2022年度サマセ)

#### ◆ビジネスゲーム

- 新型コロナウイルスの影響によりस्पセはオンラインと大学で対面、サマセは合宿で行いました。

## 根岸ゼミ

根岸ゼミでは、現代経済社会の問題について、政府を含む公共政策を切り口に、グループでの学習と個人での学習をそれぞれ行いました。グループでの学習としては、外部のコンテストに参加したことが挙げられます。個人での学習は「学習プロジェクト」に取り組みました。以下、それぞれの報告をしていきます。

### 1. グループ学習：外部コンテストへの参加

グループでの学習は、外部コンテストに参加し、その研究成果を評価してもらうことでゼミ生の成長に繋がりました。

2年生は、『公共政策入門』を輪読するとともに、「メトロ・アワード」のプランニング部門に参加しました。3チームは社会的な課題の解決を目指して「タクシーアプリ＜GO＞の活用」、別の3チームは伝統芸能を普及するために「観世能楽堂の集客」に取り組みました。各チームに1名の上級生を配置したことで、作業の進め方やアイデアのまとめ方などについて多くの成長を実感することができました。

3年生は、春休みを含めると3つのコンテストに参加して、3つのグループ論文を完成させました。その中でも、「神奈川産学チャレンジプログラム」には4チームが参加し、2チームが賞を獲得しました。1チームはSMBC日興証券からの「証券投資教育に関する課題」に取り組み、最優秀賞を獲得し、もう1チームは崎陽軒からの「フードテックに関する課題」に取り組み、優秀賞を獲得しました。12月12日には、パシフィコ横浜で行われた表彰式に参加しました。

### 2. 個人学習：学習プロジェクト&卒業論文

個人学習として、2・3年生は「学習プロジェクト」を行いました。「学習プロジェクト」では、卒業論文の執筆に向けて、学生が各自で選んだ研究テーマに関する本を読み、その内容について最も面白いと感じた部分を、他の学生に教えることで共有します。テーマは、ふるさと納税、地域問題、経済格差、雇用問題、為替と貿易問題など、個人によって様々でした。その分、他のゼミ生の発表によって得る学びも幅広く、知見が広がり、またゼミ生にわかりやすく発表することで伝える力を身につけることができました。

4年生は、ゼミの目的である「自分で学習することができる自立した学習者」を目指し、卒業論文を執筆しました。卒業論文における活動は主に個人の活動ですが、「学生同士で学び合い、教え合う」ことを大切にするために、グループでスケジュール管理や進捗状況の報告、共有とフィードバックを行いました。2月18日には、卒業論文発表会を行います。この発表会に、4年生は父母を招待し、発表を聞いてもらう予定です。

以上が、根岸ゼミの1年間の学びです。

## 芳賀ゼミ

### ●研究テーマ：

マーケティング（特に、消費者行動論）

### ●基本活動

金曜5限・6限

### ●ゼミの進め方

ゼミでは「マーケティング」のうち、消費者がなぜ買うのか、いつ買うのか、何を買うのか、どのように買うのかについて「消費者行動論」といった心理学と関連の深い分野を中心に研究を深めている。

本ゼミの取り組みとしては、消費者視点からマーケティング問題（新製品開発、広告コミュニケーション、ブランド戦略 etc…）について、グループないし個人で研究を進めている。具体的には、ネットあるいは新聞・雑誌の記事を使った情報収集や市場分析から始まり、調査（店頭調査、発売中の商品の調査、実食調査など）に加えて、マーケティングリサーチを踏まえたプレゼンテーションを重ねている。

### ●活動内容：

#### <2年ゼミ－2期生>

消費者の視点から身近なコンビニ弁当を題材として新商品開発案やマーケティング戦略を検討するなど、マーケティングの基礎についてグループ研究を通して学んだ。チームごとに調査するコンビニを決め、お弁当の実食調査を行った上でインタビュー調査を実施した。これらの内容を基にテキストマイニングを利用して分析する手法を学ぶことができた。分析内容等の途中経過に関してプレゼンを通して発表し、先生からいただいたフィードバックを基に最終プレゼンを行った。コンビニの特徴を理解した上で、インタビュー調査やペルソナ分析で決定したターゲットに対するコンビニ弁当の新商品開発案は、各チーム特色のあるもので今学期に学んだことを生かし、更に理解を深めることのできる内容だった。

#### <3年ゼミ－1期生>

前期は主にHADというフリーの統計分析用プログラムのソフトを用いて分散分析や回帰分析など様々な分析方法を学んだ。毎回習った分析方法ごとにグループワークを行い、仮説を立てて実際に検証を行いこれの発表を3週間ごとに行った。

後期では産学連携で株式会社リーガルコーポレーション様と共同で新商品を提案した。革靴を作る際に余った部分を有効活用するために、革靴以外の商品を各グループで考え、それを基にインタビュー調査を実施して、テキストマイニングやペルソナ分析、SWOT分析などのマーケティング分析を行った。毎回の授業で各グループは現状報告をし、スライドの構成や発表の仕方など、先生からいただいたフィードバックを基に、リーガルコーポレーション様に向けた中間報告会や最終報告会を無事終えることができた。

## 橋元ゼミ

### ●基本活動

毎週月曜4限・5限・6限

### ●学習内容

日本経済の構造を歴史的な観点や、最新の経済動向を踏まえて多角的に分析する能力を得るための学習を行っています。主な学習内容は、テキストの輪読、輪読の各発表者がグループディスカッションのテーマを決めてグループごとに話し合い、意見を発表するディスカッション、題材に対して賛成反対に分かれて議論を行うディベート、興味関心のあるテーマについて自分なりの考えも合わせて3分程度で発表するスピーチを実施しています。また、後期からは最新の情報をいち早く学ぶために、最新の経済状況に関する映像を視聴してグループ内で意見を交わす時事グルディスというものを実施しました。

### ●基本授業外学習

- ➡年に2回の対面形式での合宿（茨城県潮来市で実施）
- ➡OB・OGを招き3年生を中心とするセミナー、模擬面接対策
- ➡ゼミ成果発表会での研究成果発表

### ●学習成果

輪読やスピーチの発表を行うことで、日本経済について理解を深めることに加えて自分なりの意見を持つ習慣を身に付けることができていると感じています。また、自身の考えを積極的に他者に伝える習慣を身に付けるために、今年からグループディスカッションを毎週行うようにしました。その結果、少しずつではあるものの自身の考えを他者に伝える習慣が身に付き始めているのではないかと思います。

（ゼミ長 永島良伸 記）

## 藤山ゼミ

### 演習Ⅰ

3年生と合同で書籍と論文の輪読を行いました。また、グループを組んで企業研究を行いました。

#### ●企業研究 研究テーマ一覧（現3年の2年次の研究テーマ）

「出前館が黒字転換するには」、「スシローが業界トップに立てた理由」、「不二製油」、「NECのイノベーション戦略」

### 演習Ⅱ

2年生と合同で書籍と論文の輪読を行い、学期最後には卒論の頭出しを行いました。3年生はビジネスコンテストとゼミ成果発表会という2回の対外的な発表を行いました。

#### ●ビジネスコンテスト テーマ一覧

「地方移住者支援」、「授業動画配信サービス」、「ひとり親支援」、「伝統工芸品の海外向け通販サイト」

#### ●ゼミ成果発表会 テーマ一覧

「業界トップであったコクヨはなぜ売り上げを落としてしまったのか」、「Airbnbの競争優位の源泉は何か」、「カラオケ業界の構造の変化」、「ヤマト運輸が利益率を追い求めない理由」

### 演習Ⅲ・Ⅳ

4年生は1年間かけて卒業論文を執筆しました。

#### ●卒業論文 テーマ例

「アリソンの分析モデルを用いた「香港国家安全維持法」制定の経緯の分析」、「Instagramにおけるインフルエンサーマーケティングが消費者の購買意欲に与える影響」、「アニコム損害保険株式会社の成功要因－ベンチャー創業初期の信頼構築－」、「A-Uモデルから見るプリクラ市場でのフリーの成功要因」、「SECIモデルの新解釈－株式会社サンコーの事例を通じて－」、「イノベーションのジレンマからみるSHEIN」等

#### ■輪読した書籍

「デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析/博報堂生活総合研究所」

「戦略的思考をどう実践するか【エール大学式ゲーム理論の活用法】/アビナッシュ・ディキシット・バリー・ネイルパフ」

「脱常識の社会学第二版 社会の読み方入門/ランドル・コリンズ」

## 星野ゼミ

### 【2年生】（男子：14名、女子：5名）

- 輪読（小倉昌男『経営学』）を中心に、経営学の基礎について学びました。
- グループワークを通じて、ゼミで学んだ知識を具体的な事例と結びつけました。

### 【3年生】（男子：9名、女子：15名）

- 前期は輪読（東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』（第3版））を通して、具体的なケースを踏まえて経営学の知識を深めました。
- 後期は神奈川産学チャレンジプログラムに参加し、10月にプレゼンを行いました。今年度は1チームが優秀賞（株式会社マイナビ）を受賞しました。
- また、12月にゼミ成果発表会に参加しました。今年度は、以下の4つのテーマを発表しました。
  - ▶ マッチング理論は世界を救う
  - ▶ ブームを意図的に作ることはできるか
  - ▶ SNSを利用したマーケティング戦略の有効性と限界
  - ▶ オタクを対象にするマーケティングの有効性と限界—コラボ商品に関する検証—

### 【4年生】（男子：7名、女子：9名）

- 卒業論文の研究および執筆に取り組みました。

#### ＜卒論テーマの例＞

- ▶ 行動経済学は集客や購買促進に有効か—カリギュラ効果のケース—
- ▶ 日本のスポーツ商業化はなぜ遅れているのか—日本とアメリカの学生スポーツを比較して—
- ▶ インサイトマーケティングの有効性と課題に関する—考察—
- ▶ 川下におけるプロセスイノベーションに関する—考察—D2Cの脆さと実店舗の存在意義—

## 宮下ゼミ

### 【活動内容】

私たちのゼミは「現代企業のマーケティング」をテーマに、国内外の企業のマーケティングや消費経済について学んでいます。普段のゼミ活動は学年別に行っていますが、半期に2～3回ほど複数の学年が合同で研究報告会を行っています。

2年生と3年生はインプットしたマーケティング知識をアウトプットする場として、外部コンテストに出場しています。令和4年度に参加した外部コンテストは2年生、3年生が後期にそれぞれ同じ外部コンテストに2回参加しました。どのプロジェクトも1ヶ月ほどの短い期間なので、短期集中で仲間と切磋琢磨することができました。同じコンテストだったので、3年が2年にアドバイスをしたり、合同の発表会を行いました。

2年生は基礎的な教科書をインプットし、3年生は専門書と「日経MJ」（新聞）を毎週、要約して発表します。

4年生は卒業論文の執筆に専念しました。また、卒業生の方数名が来校してくださり、貴重な話をしてくださいました。以下が各学年の令和4年度の主な活動内容です。

#### ● 2年生

- 教科書を用いた発表
- 個人研究：新しい商業施設を提案
- 外部コンテスト①次世代店舗をテーマとした企画コンテスト（グループで参加）
- 外部コンテスト②ビジネスコンテスト（グループで参加）

#### ● 3年生

- 教科書を用いた発表
- 「日経MJ」を用いた発表
- 個人研究：新しい商業施設を提案
- 外部コンテスト①次世代店舗をテーマとした企画コンテスト（グループで参加）
- 外部コンテスト②ビジネスコンテスト（グループで参加）

#### ● 4年生

- 卒業論文の執筆
- 日経MJを用いた発表
- ゼミの後輩にむけた就職活動の報告会

## 山本ゼミ

### 【2年生】

卒議論文とはどのようなものなのかを理解するために、指定されたジャンルの中から1つ論文を選択し、要点を纏めて授業日に発表します。他の人は報告された論文を読むことで、さまざまな論文に対する知識を深めます。分からない箇所や専門用語は教員が解説を行い、内容の理解を深めていきます。

活動の成果としては、さまざまな論文に触れることで、自分の興味のある分野を探ることができ、3、4年生で書く卒業論文の作成に向けた準備ができました。

### 【3年生】

2年生の時に行った活動から、卒業論文のテーマを決め、本格的に卒業論文を書きはじめます。授業日には進行状況を全体で共有し、教員からのコメントを貰いながら、各自進めていきました。

活動の成果として、3年生のゼミ生全員が卒業論文のテーマを決めることができました。

#### 《卒業論文タイトル（仮）例》

- 神奈川県三浦市における伝統的魚食の実態
- 遺跡による地域振興—静岡県登呂遺跡を事例として
- 過疎山村における地域ブランディング—六合地区の花弁栽培を事例として

### 【4年生】

調査対象地域に赴き、アンケート調査を行ったり、現地の人の話を聞いたりして、情報収集を行い、卒業論文の仕上げに向けて活動しました。

活動の成果として、4年生全員が卒業論文を作成することができました。

#### 《卒業論文タイトル一覧》

- シェアサイクルの観光における役割—日光を事例に
- 地域鉄道の観光効果と地域に果たす役割—大井川鐵道を事例として
- 廃校活用の実態—千葉県南房総市シラハマ校舎を事例に
- 現代におけるミニシアターと地域の関わり—川越スカラ座を事例として
- 埼玉県秩父市における観光客の動向や観光戦略